

循環器小児科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕

特発性心筋症における遺伝子変異と臨床像

〔研究機関〕

東京女子医科大学病院 循環器小児科

〔実施責任者〕

東京女子医科大学 循環器小児科 教授
中西敏雄

〔研究の目的〕

診療録に記載された臨床情報を収集し、既に解析されている遺伝子変異の有無と照らし合わせて、日本人の特発性心筋症における遺伝子変異と臨床像の関係を明らかにすることを目的とします。

〔研究の方法〕

（1）対象となる患者様

特発性心筋症の患者様で、平成3年1月1日から平成24年3月31日の間に特発性心筋症の原因遺伝子検索を受けた方

（2）利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、家族歴の有無、合併症、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心臓カテーテル検査）、治療内容、重症度（NYHA分類）

〔個人情報の取り扱い〕

（1）個人情報の保護

診療録の情報を利用しますが、それが誰の情報であるか特定できないように、患者様ごとに個人情報が含まれない新たな符号・番号を付けます。診療録番号とこの新しい符号・番号との対応表は、当院で専任の個人情報管理者が厳重に保管します。お名前、ご住所など、患者様を同定できる個人情報は削除された状態で、研究代表施設で集計され、研究代表者、専任の解析担当者により厳重に保管された上、研究に利用されます。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者様を特定できる個人情報は含まれま

せん。

(2) 研究成果の公表

この研究の成果は、患者様を特定できる個人情報に含まれない形で、研究代表者が学会や学術雑誌で公表する予定です。

(3) 研究から生じる知的財産権の帰属

この研究から生じる知的財産権は、患者様ではなく、当院および共同研究機関に帰属します。

(4) 研究終了後の試料取扱の方針

個人情報を消去し、患者様が特定されないようにして作成された調査票は、代表研究者施設で保管しますが、この研究が終了して結果の公表が完了した後、速やかに廃棄いたします。また、患者様ごとに付けた符号・番号と診療録番号との対応表も、結果公表後、当院の情報管理者により速やかに破棄いたします。

(5) 費用負担に関する事項

患者様に費用負担をお願いすることはありません。

※上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

研究実施責任者 循環器小児科 教授 中西敏雄

住所：〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学病院循環器小児科

電話：03-3353-23111（直通）

平成 年 月 日

糖尿病・代謝内科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の
患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、当院で保管している検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 糖尿病患者における足潰瘍、壊疽の病態および進展さらには生命予後に
関与する因子の解明に関する研究(後ろ向き研究)

【研究機関】 東京女子医科大学病院糖尿病・代謝内科

【研究責任者】 東京女子医科大学 第三内科学 主任教授 内潟 安子

【研究の目的】

糖尿病潰瘍、壊疽の病態および進展さらには生命予後に関与する因子を解明する。

【研究の概要】

糖尿病足感染症の患者さんを対象に観察開始時の血液および尿中の各種炎症性マーカー、酸化ストレスマーカー、プロカルシトニン、血清 esRAGE 値などを測定し、その後、長期的な観察を行い下肢切断、死亡の推移などを調査する。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

糖尿病足感染症の患者さんで、平成 19 年 6 月 1 日から平成 24 年 9 月 30 日の間に研究用の血液（内容に応じて修正）の保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：血液

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査、生理学検査、手術記録、病理学検査、感染症検査、創閉鎖や下肢切断、死亡などの治療経過

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院第三内科学

担当医師 井倉 和紀

電話 03-3353-8111 FAX 03-3358-1941

平成 24 年 10 月 17 日

眼科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 黄斑疾患の病態評価に関する後ろ向き研究

【研究機関】 東京女子医科大学病院眼科

【研究責任者】 飯田知弘、東京女子医科大学眼科・主任教授

【研究の目的】 黄斑疾患の治療効果を調査するため、眼科検査の有用性を検討するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

黄斑疾患の患者さんで、平成 14 年 10 月 1 日から平成 29 年 9 月 30 日の間に黄斑疾患の治療や眼科検査を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、家族歴、既往歴、手術記録、検査結果（血液検査、視力、眼圧、蛍光眼底造影検査、光干渉断層計、眼底自発蛍光撮影）

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院眼科

担当医師 飯田知弘

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7343

泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 透析期間と生体腎移植治療成績の統計学的解析

【研究機関】 東京女子医科大学病院泌尿器科

【研究責任者】 泌尿器科 主任教授 田邊 一成

【研究の目的】

術前透析期間が生体腎移植後の治療成績に与える影響について検証する

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成 12 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 1 日の間に生体腎移植治療を受けた 18 歳以上の方。

●利用するカルテ情報

術前透析期間、術前疾患（糖尿病・高血圧・高脂血症）、腎移植後の腎機能、拒絶反応発生率、ドナーの年齢性別

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院泌尿器科 担当医師 公平 直樹

電話 03-3358-0166 FAX 03-3358-0442

平成 24 年 8 月 14 日

内分泌外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 「区間ハザードからみた乳癌症例の予後」

【研究機関】 東京女子医科大学病院 内分泌外科

【研究責任者】 岡本 高宏 東京女子医科大学 内分泌外科 教授

【研究の目的】

治療の結果を評価することは、今後の診療方針を検討するうえで重要なことです。とくに癌の治療では再発の危険を予測することが求められますが、そうした危険は時間の経過とともに変わることが報告されています。本研究では温存療法や見張りリンパ節生検など最新の乳癌治療を受けた患者さんの再発・生命予後を調査し、再発の危険が時間経過とともにどのように変わるのかを検証します。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

2002 年 1 月から 2011 年 12 月までの間に、東京女子医科大学内分泌外科で初回の外科治療を受けた女性の乳癌患者さん。

●利用するカルテ情報

- ① 基本情報（年齢、閉経状態、両側乳癌の有無、乳癌家族歴）
- ② TNM 分類情報
- ③ 手術術式（乳腺切除範囲、センチネルリンパ節生検施行の有無、腋窩郭清施行の有無）
- ④ 病理診断情報（組織診断名、リンパ節転移、組織学的悪性度、ホルモン受容体、HER2 発現、Ki-67 指標）
- ⑤ 化学療法（施行の有無、その内容）
- ⑥ 内分泌療法（施行の有無、その内容）
- ⑦ 放射線療法（施行の有無、その内容）
- ⑧ 診察情報
- ⑨ 画像診断情報（マンモグラフィ、乳腺超音波検査、胸部レントゲン・腹部超音波検査あるいは胸腹部 CT 検査、骨シンチグラフィ、PET 検査）
- ⑩ 腫瘍マーカー検査結果（CEA, CA15-3, NCC）
- ⑪ 予後情報（再発の有無、生存情報）

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院内分泌外科 担当医師 岡本高宏

電話 03-5269-7340 FAX 03-5269-7340

平成 24 年 9 月 5 日

東京女子医科大学糖尿病センターに通院中の患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 糖尿病センター通院歴のある 1 型糖尿病患者の 2010 年時点の予後調査

[研究機関] 東京女子医科大学病院糖尿病センター

[研究責任者]	内潟安子	東京女子医科大学	糖尿病・代謝内科	主任教授
	大谷敏嘉	東京女子医科大学	糖尿病・代謝内科	非常勤講師
	三浦順之助	東京女子医科大学	糖尿病・代謝内科	講師

[研究の目的]

東京女子医科大学医学部糖尿病・代謝内科に通院中もしくは通院していた 1 型糖尿病患者の 2010 年時点の予後を明らかにする。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

1962 年～2010 年までに東京女子医科大学病院糖尿病・代謝内科に通院中もしくは通院していた 1 型糖尿病患者

●利用するカルテ情報

糖尿病発症年齢、身長、体重、治療歴、外来血圧、透析の有無、腎移植の有無
血液生化学的検査：HbA1c、血清クレアチニン、血清脂質、負荷前血糖、負荷前 CPR、
食事負荷 60 分後血糖、食事負荷 60 分後 CPR、食事負荷 120 分後血糖、食事負荷 120
分後 CPR 尿蛋白、24 時間尿中 CPR、尿中アルブミン

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院糖尿病センター 担当医師 大谷敏嘉

電話 03-3353-8111 27110 FAX 03-3358-1941

平成 24 年 10 月 8 日

血液内科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の 患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 リンパ増殖性腫瘍におけるMYD88遺伝子の解析

【研究機関】 東京女子医科大学病院

【研究責任者】 血液内科 主任教授 泉二登志子

【研究の目的】 マクログロブリン血症、悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫における MYD88 遺伝子の変異と病気の関係を解明するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

マクログロブリン血症、悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫の患者さんで、平成 12 年 7 月 4 日から平成 24 年 9 月 30 日の間に遺伝子、蛋白の研究用の検体の保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：血液、リンパ節、骨髄（以前に研究用としての保管に同意いただいた分）。

カルテ情報：

- 1 診断名、年齢、性別、身体所見、治療内容、治療効果、状態
- 2 血液検査結果：血算、肝機能、腎機能、CRP、蛋白
- 3 CT、エコー、リンパ節病理、骨髄像、染色体、キメラ遺伝子、表面マーカー

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

＊上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院血液内科 担当医師 森 直樹

電話 03-3353-8111 (31544) FAX 03-5269-7329

平成 24 年 月 日

血液内科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の
患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 白血病、骨髄異形成症候群におけるRIZ1遺伝子、RUNX3遺伝子、p73遺伝子のプロモーターのメチル化と変異解析

【研究機関】 東京女子医科大学病院

【研究責任者】 血液内科 主任教授 泉二登志子

【研究の目的】

白血病、骨髄異形成症候群の進展、増悪に関係する異常を解明するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

白血病、骨髄異形成症候群の患者さんで、平成12年7月4日から平成24年9月30日の間に遺伝子、蛋白の研究用の検体の保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：血液、骨髄（以前に研究用としての保管に同意いただいた分）

カルテ情報：

- 1 診断名、年齢、性別、身体所見、治療内容、治療効果、状態
- 2 血液検査結果：血算、肝機能、腎機能、CRP、ビタミンB12、NAPスコア
- 3 CT、腹部エコー、骨髄像、染色体、キメラ遺伝子定量

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院血液内科 担当医師 森 直樹

電話 03-3353-8111 (31544) FAX 03-5269-7329

平成 2012 年 12 月 12 日

**膠原病リウマチ痛風センターに通院中
(または過去に通院されたことのある) の
患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)**

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 筋炎・強皮症関連自己抗体検出試薬の臨床的有用性の確認

[研究機関] 東京女子医科大学病院附属膠原病リウマチ痛風センター膠原病リウマチ内科

[研究実施者] 膠原病リウマチ痛風センター膠原病リウマチ内科 臨床教授 川口 鎮司

[研究の目的]

筋炎・強皮症関連自己抗体検出試薬の臨床的有用性の確認するため。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

膠原病の患者さんで、平成 15 年 1 月 1 日から平成 24 年 8 月 31 日の間に膠原病の研究用の血液の保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：血液 (以前に研究用としての保管に同意いただいた分)

カルテ情報：採血日、生年月日、性別、発病年月、疾患名、検査結果(自己抗体検査)、内臓病変の有無、治療抵抗性の有無(筋炎の患者さんのみ)、病型名(強皮症の患者さんのみ)など

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

東京都新宿区河田町 1 0-2 2

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター

担当医師 川口 鎮司

電話 03-5269-1725 FAX 03-5269-1726

熱傷のため入院された患者さんへ

当院では、よりよい診療を行うために患者さんの調査を行っています。

熱傷診療の質を向上することを目的としています。

熱傷の入院患者さんの診療情報をたくさんの施設から集め、一元的にデータベース化することによって熱傷診療の調査を行います。この調査は、我が国における熱傷診療の全体像を把握し、今後の熱傷診療における質の向上に役立たせることを目的としております。
(この調査は、日本熱傷学会が中心となり全国の医療機関と共同で行っています。)

これまでの診療記録を集計しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

この調査では、担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）から、受傷年月日、年齢、重症度、手術の有無、治療の経過などについて集計させていただきます。

調査の対象となる方

2011年4月から2016年3月のあいだに、熱傷のため当院に入院した患者さんを対象としています。

お名前や個人情報ができることは、一切ありません。

この調査では、個人を特定できるような氏名・診療カード番号・住所などは使用いたしません。また、施設内の個人情報管理者が、厳重に元データを保管・管理しております。
ご心配な点がございましたら、下記当院担当科までお問い合わせください。

この調査にご自分の診療記録を使ってほしくない患者さん（または代理の方）は、いつでもお申し出ください。

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。患者さんご本人もしくは代理の方のお申し出により、いつでもお断りして頂くことが出来ます。お断りの場合には、主治医もしくは下記当院担当科へお申し出ください。

担当診療科：形成外科（担当医師山本有祐・内線31424）

—東京女子医科大学病院—

電話（代表）03-3426-8777

平成 24 年 12 月 1 日

小児科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 脳 MRI 所見の経年的変化を基にした Leigh 症候群の亜型分類

【研究機関】 東京女子医科大学病院小児科

【研究責任者】 大澤真木子 東京女子医科大学小児科 主任教授

【研究の目的】 Leigh 症候群を分類し診断に役立たせるため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

Leigh 症候群の患者さんで、1990 年から 2000 年までの 10 年間に当科を初診し、脳 MRI の検査を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、家族歴、身体所見、主訴、転帰、治療内容、検査結果（血液検査、画像検査、生化学検査、生理検査、筋生検、遺伝子検査、病理解剖結果）

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院小児科

担当医師 田良島美佳子

電話 03-3353-8111 (内線 31230)

FAX 03-5269-7338

平成 24 年 11 月 20 日

泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 「上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘術におけるリンパ節郭清の不利益面の検討」

【研究機関】 東京女子医科大学病院泌尿器科

【研究責任者】 主任教授 田邊 一成

【研究の目的】

上部尿路上皮がん（腎盂がん、尿管がん）の患者さんの手術でリンパ節郭清をおこなった方と行わなかった方で手術成績（手術時間、出血量、合併症など）に与える影響を検討する

【研究の方法】

●対象となる患者さん

上部尿路上皮がんの患者さんで、昭和 62 年 1 月 1 日から平成 24 年 9 月 30 日の間に手術治療を受けた方

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、身体所見、理学所見、血液検査結果、画像診断結果（CT、MRI、シンチグラフィー）
- ②手術所見、手術成績（手術時間、出血量、合併症、退院日）、病理検査結果

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院泌尿器科 担当医師 近藤 恒徳
電話 03-3353-8111 FAX 03-3356-0293



熱傷のため入院された患者さんへ

当院では、よりよい診療を行うために患者さんの調査を行っています。

熱傷診療の質を向上することを目的としています。

熱傷の入院患者さんの診療情報をたくさんの施設から集め、一元的にデータベース化することによって熱傷診療の調査を行います。この調査は、我が国における熱傷診療の全体像を把握し、今後の熱傷診療における質の向上に役立たせることを目的としております。（この調査は、日本熱傷学会が中心となり全国の医療機関と共同で行っています。）

これまでの診療記録を集計しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

この調査では、担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）から、受傷年月日、年齢、重症度、手術の有無、治療の経過などについて集計させていただきます。

調査の対象となる方

2011年4月から2016年3月のあいだに、熱傷のため当院に入院した患者さんを対象としています。

お名前や個人情報がでることは、一切ありません。

この調査では、個人を特定できるような氏名・診療カード番号・住所などは使用いたしません。また、施設内の個人情報管理者が、厳重に元データを保管・管理しております。ご心配な点がございましたら、下記当院担当科までお問い合わせください。

この調査にご自分の診療記録を使ってほしくない患者さん（または代理の方）は、いつでもお申し出ください。

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。患者さんご本人もしくは代理の方のお申し出により、いつでもお断りして頂くことが出来ます。お断りの場合には、主治医もしくは下記当院担当科へお申し出ください。

担当診療科：形成外科（担当医師山本有祐・内線31424）

—東京女子医科大学病院—

電話（代表）03-3426-8777

平成 年 月 日

循環器小児科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 フォンタン術後の血栓症に関する調査

【研究機関】 東京女子医科大学病院循環器小児科

【研究責任者】 中西敏雄 東京女子医科大学 循環器小児科 教授

【研究の目的】

フォンタン手術後の患者さんの血栓症の頻度を調べ、抗血小板薬や抗凝固薬の投与で血栓症を減らすことができるかを検討します。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

フォンタン手術を受けられ1年以上経過している方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査）

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院循環器小児科 担当医師 中西敏雄

電話 03-3353-8111・FAX 03-3356-0441

平成 年 月 日

循環器小児科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕 日本における小児心筋症の予後調査

〔研究機関〕 東京女子医科大学病院循環器小児科

〔研究責任者〕 中西敏雄 東京女子医科大学 循環器小児科 教授

〔研究の目的〕

小児心筋症に対する心臓移植の適応を決める上で、小児心筋症の予後についての研究が欠かせません。しかし小児心筋症の予後についての大規模な調査研究は我が国ではなされたことがありません。本研究の目的は、我が国で小児心筋症患者の内科管理と予後についての調査研究を施行することです。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん

心筋症の診断を、18歳未満のときに受けられた方。1990年以降に心筋症と診断された方。

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、遺伝子検査）

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

〔問い合わせ先〕

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院循環器小児科

担当医師 中西敏雄

電話 03-3353-8111・FAX 03-3356-0441

東京女子医科大学 web ページ説明書

(1)研究の趣旨

【研究目的、意義と研究参加へのお願い】

透析患者に腎細胞がんの合併は多いことが知られています。最近、腎細胞がんの中でも透析患者に特徴的な病理組織像が明らかにされてきました。また、透析腎がんは一般的に予後が良いと考えられていますが、死亡原因となる患者も存在します。透析歴が長い患者には特徴的なかつ悪性度が高い腎細胞がんが発生する可能性が高いことを我々はすでに明らかにしてきました。さらに症例数を加えることで、どのような透析患者に予後不良な腎細胞がんを合併するのかを明らかにします。

透析患者数は世界的に見ても日本は群を抜いて多く、また、今後も増加が予測されます。透析腎癌の病理組織は散発性腎癌（透析を行っていない患者さんに発生する腎癌）とは異なる部分が多いとされており、最近その分類方法もより細分化され始めています。癌という診断が変わる事はありませんが、過去の手術症例を細分化された最新の分類方法に照らし合わせて、新しい発見、また今後の透析患者さんの経過観察に重要な役割を果たすと考えています。

【個人情報の取り扱いと研究参加の同意】

今回は、過去の手術標本を最新の分類方法にあわせて検討することを目的とします。新たに検体を採取することはありませんが、臨床的なデータと比較する必要があり個人情報を扱います。個人情報を今回の研究以外で利用することは有りません。また、学会／論文で報告させて頂く際は、個人情報は全て削除致します。

(2)研究計画の説明

研究題目	透析患者における腎細胞がん 透析期間は病理学的組織像および予後に影響を与えるか？
研究機関名	名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科 名古屋第二赤十字病院 病理部 東京女子医科大学 泌尿器科
研究責任者の職名・氏名	東京女子医科大学 泌尿器科 教授 田邊一成

研究分担者の職名・氏名	東京女子医科大学 泌尿器科 講師 近藤恒徳 東京女子医科大学 泌尿器科 助教 高木敏男
共同実施機関名・責任者の氏名	名古屋第二赤十字病院 病理部 部長 都築豊徳 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科 助教 佐々直人
対象とする疾患名	透析患者さんに合併した腎細胞がん
調査する全ての資料項目 (日常診療から得る情報も含む)	過去に腎細胞がんのために手術を施行された患者さんの摘出病理標本 患者背景：年齢、手術歴、CT 所見、治療内容及び結果：手術所見（手術内容）、診療録記載、手術記録 (但し、倫理委員会の許可を得て、調査資料項目が追加される可能性があります)

【研究方法】

1. 現在までに手術をうけていただいた患者さんの手術時に採取した摘出標本（組織の一部）を、再度、顕微鏡的に観察し再評価を行います。患者さんの、現在の再発の有無などと照らし合わせ、予後不良な因子がないかを明らかにします。
2. 研究解析に必要なデータを診療録から提供していただきます。提供をお願いするデータは患者背景：年齢、性別、CT所見、透析期間
治療内容及び結果：手術所見（手術内容）などです。
3. 1 の再評価の結果と2 の臨床データを比較・検討・解析します。

【実施計画等をさらに知りたいとき】

ご希望があれば、研究計画の内容をみることができます。

(3)試料提供者にもたらされる利益及び不利益

過去の手術標本を再検討するのみであり、不利益を受けることはありません。また、今後の治療にも影響は一切ありません。研究に参加したことで治療内容が異なることはありません。本研究に参加することにより加わる、新たな

リスクはありません。

(4)研究に参加しなかった場合の対応（他の治療法の有無やその内容）

本研究に参加されない場合でもそのことで不利益を被ることは一切なく、従来の医療を受けることができます。

(5)個人情報の保護

患者さんより得られたデータを本研究以外の目的で利用することは有りません。また個人名が特定されることは一切有りません。情報の管理には細心の注意を払っており、情報管理者には守秘義務を有する調査研究担当者があたります。但し匿名で本研究の成果として学会や論文に発表する場合がありますが、この場合においても個人を特定できる内容の発表にはなりません。

(6)検査結果を伝えることについて

本研究は予後予測因子を解明するものであり、個別の検査（実験）結果については告知致しません。

(7)研究結果の公表

研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名等が明らかにならないようにした上で、学会や学術雑誌およびデータベース上で公に発表されることがあります。

(8)研究から生ずる知的所有権について

特許等の知的所有権が生じた場合は、研究者あるいは研究機関がその知的所有権を持つことになります。

(10)目的とする検査が終わった検体はどう扱われるか

組織検体は、再検討前と同様に今後も保管されます。

(11)研究用の検査の費用について

本研究にかかる患者さんの費用負担は有りません。

(12)問い合わせ先

○ 問い合わせ先

説明者氏名、診療担当医師氏名：

東京女子医科大学泌尿器科 講師 近藤 恒徳

電話：03-3353-8111 内線 39112

ホームページ内容

転移性腎癌患者の時代変遷別生存率比較

転移性腎細胞癌を有する患者さんの生存期間の統計および調査を行います。転移性腎細胞癌を有する患者さんの生存期間を治療開始時期に分けて後ろ向きに調査し、生存率が改善されているか評価します。調査では名前、カルテ番号など個人が特定できる内容は匿名化されるため、個人の情報は保護されます。

○ 対象となることを希望されない方は連絡先までご連絡ください。

1. はじめに

腎癌の罹患者数は他の癌と同様に増加傾向にあります。欧米諸国では限局性腎癌患者数は増加傾向にあり転移性腎癌患者数は減少傾向にありますが、限局性腎癌の予後は悪化し転移性腎癌の予後は改善傾向にあります。転移性腎癌の予後が改善している一因として、治療薬の新規承認が考えられます。日本では1987年に腎癌に対してインターフェロン α が保険適応となり、転移性腎癌治療の標準治療薬となりました。更に2008年に分子標的薬（チロシンキナーゼ阻害薬）が承認されて、現在ではインターフェロン α に代わり転移性腎癌に対する標準治療になりつつあります。但し、インターフェロン α 同様に分子標的薬は、寛解率は必ずしも高くなく全生存率改善に寄与しているかどうかは検討すべき点出ると考えています。

○

2. 対象

1979年1月1日から2011年12月31日までの33年間に、東京女子医科大学泌尿器科で転移性腎細胞癌の診断で治療した344名を対象としています。

3. 研究内容

転移性腎細胞癌を有する患者さんの生存期間、生存期間に関与する可能性のある臨床情報、その他の情報収集を後ろ向きに行い解析します。

4. 個人情報の管理について

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されないかたは、下記連絡先までご連絡下さい。

5. 研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 25 年 12 月 31 日

6. 医学上の貢献

本研究により、転移性腎細胞癌を有する患者さんの治療開始時期に分けた生存率を知ることができます。それにより、現在行われている治療方法が実際患者さんに有益な事なのかを解析し今後の治療に役立てることができます。

7. 研究機関

研究責任者： 東京女子医科大学泌尿器科 主任教授 田邊 一成

研究分担者： 東京女子医科大学泌尿器科 講師 近藤 恒徳

東京女子医科大学泌尿器科 助教 高木 敏男

8. 連絡先

〒 162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学泌尿器科

助教 高木敏男

電話：03-3353-8111 泌尿器科学医局

2715

平成 25 年 月 日

通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の
患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）が原因不明の延長を示した凝固異常症例において交差混合試験を用いた包括的研究

【研究機関】 東京女子医科大学病院 中央検査部

【研究責任者】 東京女子医科大学病院 中央検査部 運営部長 川島 眞

【研究の目的】 通常は血液が体外に出ると固まりますが、患者さんによっては、血液が固まりにくくなることがあります。その原因を調べる検査の一つに「交差混合試験」というものがあり、通常の血液と固まりにくい血液の成分を混ぜ合わせて、混ぜた時に固まる時間がどのように変わるかを調べて、固まりにくい原因の究明に役立てます。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成 年 月 日から平成 27 年 12 月 31 日の間に血液凝固検査を行った患者さん

●利用する検体およびカルテ情報

検体：血液（臨床検査終了後の残余の血液）

カルテ情報：診断名、年齢、性別、検査結果（血液検査）

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院中央検査部 技師長 三浦ひとみ

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7469

H27 12/31

2717

平成●年●月●日

腎臓内科及び泌尿器科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）
の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 腎臓病の診断に用いられる検査項目（クレアチニン、シスタチンC、尿タンパク）の有用性の比較検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院中央検査部 検体検査室

【研究責任者】 東京女子医科大学病院中央検査部 運営部長 川島 眞

【研究の目的】 腎臓内科及び泌尿器科から血清クレアチニン検査を依頼された患者さんの検体を用いて、血清シスタチンC、尿アルブミン、尿タンパクの検査を行い、その結果について、統計的手法によって診断にどのように有効か評価します。併せて、腎臓移植後の患者さんの経過観察についても、検査項目の有用性を評価して、これらの評価結果より、腎臓病の診断に有用な検査項目を検討します。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

東京女子医科大学病院腎臓内科及び泌尿器科に通院または入院し、血清クレアチニン検査を依頼された患者の残余検体を対象とします。

●利用する検体およびカルテ情報

検体：尿、血清

カルテ情報：①患者基本情報：年齢、性別

②疾患情報：疾患名、手術名、治療内容

③血液検査結果：肝機能、腎機能、電解質

④投薬情報

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご理解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学病院 中央検査部 管理機構室
03-3353-8112（内線 38215） 三浦 ひとみ

2729
平成●年●月●日

循環器小児科・心臓血管外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 フォンタン循環成立の良否を評価するための術中グレン吻合部血流プロフィールにおける呼吸性変動の有用性の後方視的検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院麻酔科

【研究責任者】 尾崎 眞 東京女子医科大学 麻酔科学教室 教授

【研究の目的】

両方向性グレン手術後を主としたフォンタン型手術の循環成立の良否を術中の経食道心エコー所見をもとに評価・予期できるか明らかにすること

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成 24 年 1 月 1 日以降に両方向性グレン手術及び他のフォンタン型手術を施行した患者

●利用するカルテ情報

年齢、性別、主たる診断名、手術既往、身体所見、手術記録（術式、手術時間、体外循環時間など）、麻酔記録（麻酔自動記録内データを含む）、術中経食道心エコー記録、術後人工呼吸時間、集中治療室入室期間、入院期間、合併症有無と合併症内容、転帰

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院麻酔科 担当医師 黒川 智

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7336

循環器小児科に通院中または過去に通院していた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名]

肺動脈性肺高血圧症における新規バイオマーカーの同定

[研究機関]

東京女子医科大学病院 循環器小児科

[実施責任者]

東京女子医科大学 循環器小児科 教授
中西敏雄

[研究の目的]

既存試料を利用して新規バイオマーカー候補を検索し、心臓カテーテル検査結果および病状の推移と照らし合わせることで、肺動脈性肺高血圧症における新規バイオマーカーを同定することを目的とします。

[研究の方法]

(1) 対象となる患者様

肺動脈性肺高血圧症の患者様で、平成3年1月1日から平成24年3月31日の間に肺動脈性肺高血圧症の原因遺伝子検索を受けた方

(2) 利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、家族歴の有無、検査結果（心臓カテーテル検査）、重症度（NYHA分類）

(3) 既存試料である残余血液検体を用いて新規バイオマーカーを検索し、NYHA分類とカテーテル検査結果と照合する。

[個人情報の取り扱い]

(1) 個人情報の保護

診療録の情報を利用しますが、それが誰の情報であるか特定できないように、患者様ごとに個人情報が含まれない新たな符号・番号を付けます。診療録番号とこの新しい符号・

番号との対応表は、当院で専任の個人情報管理者が厳重に保管します。お名前、ご住所など、患者様を同定できる個人情報は削除された状態で、研究代表施設で集計され、研究代表者、専任の解析担当者により厳重に保管された上、研究に利用されます。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者様を特定できる個人情報は含まれません。

(2) 研究成果の公表

この研究の成果は、患者様を特定できる個人情報は含まれない形で、研究代表者が学会や学術雑誌で公表する予定です。

(3) 研究から生じる知的財産権の帰属

この研究から生じる知的財産権は、患者様ではなく、当院および共同研究機関に帰属します。

(4) 研究終了後の試料取扱の方針

個人情報を消去し、患者様が特定されないようにして作成された調査票は、代表研究者施設で保管しますが、この研究が終了して結果の公表が完了した後、速やかに廃棄いたします。また、患者様ごとに付けた符号・番号と診療録番号との対応表も、結果公表後、当院の情報管理者により速やかに破棄いたします。

(5) 費用負担に関する事項

患者様に費用負担をお願いすることはありません。

※上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

研究実施責任者 循環器小児科 教授 中西敏雄

住所：〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学病院循環器小児科

電話：03-3353-8111 内線 2311

救命救急センターに搬送された患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 日本救急医学会関東地方会における院外心肺停止患者に対する連結不可能匿名化を用いた多施設前向き観察研究（2012年）

【研究機関】 東京女子医科大学病院救命救急センター

【研究責任者】 矢口 有乃 救急医学 准教授

【研究の目的】

院外心肺停止患者さんの予後を改善するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

心肺停止状態で救急車で搬送された患者さんで、平成24年1月1日から平成25年3月31日の間に救命救急センターで診療を受けた方

●利用するカルテ情報

年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査）、ICUに入院後の診療録、救急隊からの情報

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学病院救命救急センター 担当医師 矢口 有乃

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7335

眼科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 色覚異常の色識別能力と社会適応に関する後向き研究

【研究機関】 東京女子医科大学病院眼科

【研究責任者】 飯田知弘 主任教授

【研究の目的】 色覚異常の方は色の誤りの自覚が少なく、そのために社会では公共表示の内容を見逃したり、学業で不利益を受けたり、職業選択を誤ったりしてしまうことが問題になっています。そこで、色覚異常の方の色の見分けの内容を分析してどのように色を誤るかを明らかにし、その内容を先天色覚異常の方が理解することによって、無用な不利益を避けるため、また社会への啓発によって社会環境改善に役立てることを目的とします。また、診断や助言の資料となる色覚検査の精度についても検証します。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

色覚異常の患者さんまたはその疑いのあった方で、平成10年4月1日から平成24年12月26日の間に色覚検査を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、問診の内容、検査結果（色覚検査を含む眼科的一般検査）

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院眼科 担当医師 中村 かおる

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7343

眼科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 レーザースペックルフローグラフィを用いた
網脈絡膜血管閉塞性疾患の検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院眼科

【研究責任者】 飯田 知弘 東京女子医科大学 眼科 主任教授

【研究の目的】 LSPGを用いて網脈絡膜血管閉塞性疾患の治療前後における眼底血流を測定し血流動態の変化を計測する

【研究の方法】

●対象となる患者さん

網脈絡膜血管閉塞性疾患の患者さんで、研究開始前に網脈絡膜血管閉塞性疾患の治療（検査）を受けた方

●利用するカルテ情報

患者基本情報：年齢、性別、診断名、血圧、脈拍数、視力、眼圧、眼底、
蛍光眼底造影検査 LSPG 検査

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院眼科 担当医師 小暮 朗子

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7343

米国 DCCT/EDIC 研究の公開データベースにデータが公開されている患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 「DCCT/EDIC公開データベースを用いた
1型糖尿病患者におけるHbA1c値と網膜症との関係」
「Relationship between HbA1c values and retinopathy in DCCT/EDIC public database. 」

【研究機関】 東京女子医科大学病院 糖尿病センター

【研究責任者】 講師・廣瀬晶

【研究の目的】 1型糖尿病での HbA1c 値と網膜症との関係についての調査

【研究の方法】

●対象となる患者さん

米国 DCCT/EDIC 研究の公開データベースにデータが公開されている方

●利用するカルテ情報

診断名・年齢・性別・身体所見・検査結果（血液検査、尿検査）・経過等

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院糖尿病眼科 担当医師 廣瀬晶

電話 03-3353-8111 FAX 03-3358-1941

平成 25 年 2 月 日

救命救急センターに入院された患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕 各種ショック状態における肺動脈カテーテル検査の有用性に関する研究

〔研究機関〕 東京女子医科大学病院救命救急センター

〔研究責任者〕 矢口 有乃 救急医学 准教授・診療部長代行

〔研究の目的〕

ショック時の肺動脈カテーテル検査の有用性を検討する

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん

平成 8 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日の間に救命救急センター集中治療室に入院され肺動脈カテーテル検査を受けた患者さん

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、微生物検査、肺動脈カテーテル）

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に診療情報録を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

〔問い合わせ先〕

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院救命救急センター

担当医師 矢口 有乃

電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7335

平成 25 年 2 月 日

救命救急センターに入院された患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 敗血症におけるエンドトキシン吸着除去療法の有用性に関する研究

【研究機関】 東京女子医科大学病院救命救急センター

【研究責任者】 矢口有乃 救急医学講座 准教授・診療部長代行

【研究の目的】 エンドトキシン吸着除去療法の適応と治療の有用性について検討するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

敗血症の患者さんで、平成 6 年 6 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日の間にエンドトキシン吸着除去の治療を受けた方

●利用するカルテ情報

*診断名、年齢、性別、身体所見、血液検査、生理学検査、微生物検査、画像検査、併用した他の治療

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院救命救急センター

担当医師 矢口有乃

電話 03-3353-8111 内線 36085

FAX 03-5269-7335

東京女子医科大学 web ページ説明書

(1)研究の趣旨

小径腎腫瘍に対する腎部分切除術は、慢性腎臓病予防の観点から現在は標準的術式となりつつあります。実際当科では、積極的にお勧めしております。但し、腎部分切除術には他の手術にはない特徴的な合併症があります。その1つに仮性動脈瘤があります。これは、腎臓内にある小動脈が手術操作により一部壁が損傷してそこから血液が周囲に漏出して瘤状に成長していきます。動脈瘤を覆う壁は血管壁ではないことから仮性動脈瘤と称し、またその壁は脆弱なため破裂しやすくなっています。自然軽快する場合もありますが、出血して輸血や外科的な処置が必要となる場合があります。

今回、当科にて手術を受けた患者さんの仮性動脈瘤の発生率や特徴を調べる事で、手術方法の改善につながる可能性があります。

(2)対象

2012年1月1日から2012年12月31日までの1年間に、東京女子医科大学泌尿器科で腎腫瘍に対して腎部分切除術を施行した（する予定のある）約100名。

(3)研究内容

腎部分切除後に仮性動脈瘤を来した患者さんの特徴（年齢、性別、身長、体重、糖尿病の有無、高血圧の有無など）や腫瘍の特徴（大きさ、位置など）を後ろ向きに解析する。

(4)個人情報の管理について

今回は、手術記録や手術前／後の画像検査を再度評価し直すことを目的とします。新たに検体を採取することはありませんが、臨床的なデータと比較する必要があり個人情報を扱います。個人情報を今回の研究以外で利用することは有りません。また、学会／論文で報告させて頂く際は、個人情報は全て削除致します。

(5)研究期間

研究を行う期間は承認日より平成25年3月31日

(6)医学上の貢献

本研究により、腎腫瘍に対する腎部分切除後に発生する仮性動脈瘤の特徴を考察します。それにより、手術方法を改善し発生率を減少させる事ができる可能性があります。

(8)試料提供者にもたらされる利益及び不利益

研究に参加したことで治療内容が異なることは有りません。本研究に参加することにより加わる新たなリスクは有りません。

(9)研究に参加しなかった場合の対応（他の治療法の有無やその内容）

本研究に参加されない場合でもそのことで不利益を被ることは一切なく、従来の医療を受けることができます。

(10)検査結果を伝えることについて

本研究は予後予測因子を解明するものであり、個別の検査（実験）結果については告知致しません。

(11)研究結果の公表

研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名等が明らかにならないようにした上で、学会や学術雑誌およびデータベース上等で公に発表されることがあります。

(12)研究から生ずる知的所有権について

特許等の知的所有権が生じた場合は、研究者あるいは研究機関がその知的所有権を持つことになります。

(13)研究用の検査の費用について

本研究にかかる患者さんの費用負担は有りません。

(14)問い合わせ先

○ 問い合わせ先

説明者氏名、診療担当医師氏名：

東京女子医科大学泌尿器科 助教 高木 敏男
電話：03-3353-8111 内線 36441

平成 25 年●月●日

東京女子医科大学病院に通院・入院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕

「反応過程近似解析ツール MiRuDa[®]※」による臨床化学検査データの信頼性評価の検証」

※MiRuDa[®]とは、株式会社日立ハイテクノロジーズが開発した臨床化学自動分析装置から出力されるデータを解析するツールです。

〔研究機関〕 東京女子医科大学病院 中央検査部

〔研究責任者〕 東京女子医科大学病院 中央検査部 運営部長 川島 眞

〔研究の目的〕

臨床化学検査は、検体と試薬を反応させて検査を行います。検査の反応過程を分析機器から反応パターンとして出力することが出来ますので、この反応パターンが色々な状況によってどのように変わるのかを解析することによって、検査結果がより正しく出されているかを知ることが出来ます。今回、このパターンを解析するツールが発売されたので、使用可能か確認します。

〔研究の方法〕**●対象となる患者さん**

東京女子医科大学病院に通院・入院中の患者さんで、倫理委員会承認日から平成 26 年 12 月 31 日の間に血液検査(生化学検査)を受けた方。

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、検査結果(血液検査、)、治療内容

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院 中央検査部 技師長 三浦ひとみ

電話 03-3353-8112 内線 38215 FAX 03-5269-7469

泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 後腹膜鏡下ドナー腎採取術における臨床データを用いた解析と検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院泌尿器科

【研究責任者】 尾本和也 泌尿器科 助教

【研究の目的】

後腹膜鏡下ドナー腎採取術における有用性を検討するため

【研究の方法】

●対象となる患者さん

生体腎移植ドナーで、平成 13 年 7 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に後腹膜鏡下ドナー腎採取術を受けた方と、生体腎移植レシピエントで、同じく平成 13 年 7 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に腎移植術を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、体格指数、検査結果（尿検査、血液検査、画像検査、病理所見）、手術関連結果（手術時間、摘出時間、出血量、阻血時間、摘出腎重量、術中二酸化炭素圧、腎動静脈長、腎動静脈本数、術中術後合併症）、免疫抑制剤種類、生着率、生存率

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院泌尿器科 担当医師 尾本和也

電話 03-3353-8111 FAX 03-3356-0293

糖尿病代謝内科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 糖尿病治療薬の種類と発癌の関連の検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院糖尿病代謝内科

【研究責任者】 内潟安子 糖尿病代謝内科 主任教授

【研究の目的】 2型糖尿病患者さんを対象に糖尿病治療薬によるがん罹患リスクの差異を検証することを目的とします。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

現在、東京女子医科大学病院に通院する外来患者さんで以下の条件を満たす患者さんを本研究の対象とする。ただし、がんの種類は全般（固形癌以外も含む）で、がんの診断は診療記録による。

- 1) 2型糖尿病であること（診断基準は糖尿病学会の基準によるか、担当医の判断または患者の自己申告）
- 2) 18歳以上の日本人であること
- 3) 診断日（または診断対応日）の時点で薬物治療中の患者（インスリンのみでも登録可能）
- 4) 診断日（または診断対応日）の時点で3年以上の糖尿病の治療歴を有している事（現在の施設に3年以上通院していない場合は、過去に通院していた時の使用薬剤が解ること）
- 5) 【症例群のみ】2010年1月以降に新たにがん罹患した患者
- 6) 【対照群のみ】症例群の患者と同じ性別および±5歳の年齢であること
- 7) 2010年1月以降に通院していること

●利用するカルテ情報

- ・過去3年間のうち、1年以上服薬していた薬剤名
- ・性別
- ・生年月日
- ・身長
- ・体重

- ・ HbA1c
- ・ 喫煙の有無
- ・ 飲酒の有無
- ・ 糖尿病罹病期間
- ・ がんの種別（症例群のみ）
- ・ 診断日（または診断対応日）

なお、薬剤の使用状況については経口血糖降下薬・インスリンに加えて、降圧薬、高脂血症治療薬、抗血小板薬を対象として取得するものとする。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院糖尿病代謝内科 担当医師 中神朋子

電話 03-3353-8111 FAX 03-3358-1941

平成 25 年 6 月 1 日

呼吸器外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 胸部 Computed Tomogram から作成した気管支・肺血管 3 次元模型を利用した肺区域 3 次元解剖の観察研究

【研究機関】 東京女子医科大学病院呼吸器外科

【研究責任者】 大貫 恭正 東京女子医科大学 第一外科 主任教授

【研究の目的】

症例毎の肺区域気管支・肺血管の解剖学的 3 D 構造を明らかにし、その気管支・肺動脈、静脈の分岐型などの頻度や法則を観察し、今後の肺区域手術時等において、切断面の決定等の助けにし、血管損傷などの術中合併症の発生を減少させることを目的にする。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

肺手術目的で入院した患者さんで、平成 20 年 1 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に肺の手術の治療及び術前に胸部 CT 検査を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、PET 検査報告書、病理検査報告書、手術記録、術中ビデオ

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院呼吸器科

担当医師 大貫恭正

電話 03-3353-8111 (内線) 31125
FAX 03-5269-7331

平成 25 年 . 月 日

内分泌外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】

センチネルリンパ節転移陽性症例における腋窩非郭清の適応についての検討

【研究機関】 東京女子医科大学病院内分泌外科

【研究責任者】 岡本 高宏、内分泌外科、教授

【研究の目的】

乳癌手術でのセンチネルリンパ節生検の転移陽性例における非センチネルリンパ節への転移の予測因子について推定し、腋窩郭清省略の可能性について検討するため。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

東京女子医科大学内分泌外科の乳癌の患者さんで、平成 14 年 4 月から平成 24 年 7 月までの間にセンチネルリンパ節生検を受けた方

●利用するカルテ情報

年齢、性別、身長、体重、身体所見、カルテ記載内容、既往歴、家族歴、月経歴、妊娠・出産歴、ホルモン治療の有無、嗜好、診断名、画像検査結果、腫瘍マーカー、血液生化学検査結果、生理学検査結果、細胞診、組織診、術式、センチネルリンパ節術中迅速診断、病理学的診断、治療内容、術前化学療法、術後補助療法

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院内分泌外科 担当医師 永井 絵林
電話 03-3353-8111 FAX 03-5269-7341